

# 植生浄化基本設計について



## 1. 植生浄化の手法

- ◇浮島方式は工事による環境負荷が小さく、水質浄化の効果が期待できることから、本計画では浮島方式を採用する。
- ◇対象種はマコモとする。
- ◇マコモは生育が旺盛で、根系や地下茎の発達が良く、窒素やリンを吸収する能力に優れることから、水質浄化植物として高い効果が期待できる。
- ◇景観性にも優れ、水辺環境に調和しやすい特性を持つ。

## 2. 植生浮島の設置範囲

- ◇植生浮島の設置範囲は、ボート利用に支障を与えない位置（侵入防止杭～岸）とする。
- ◇設置面積は、昨年度の水質シミュレーションで設定した438 m<sup>2</sup>以上とし、10 m<sup>2</sup>のユニットを44基配置する計画とする。（図1）

## 3. 植生浮島の配置計画

- ◇本計画では、洗足池の景観になじむ植生マット方式を採用する。
- ◇設置幅が確保できない箇所では侵入防止柵を沖側へ移設して対応する。
- ◇マットの固定はアンカーによる固定を行う。岸側は地上部へ杭を打設、固定することとし、沖側はアンカーロープによる固定とする。（図2、3）
- ◇アンカーロープの一部が侵入防止柵よりも沖側に出ることとなるが、植生マットから2m地点で水深50cm以深の位置（図3）となるため、ロープへの接触は避けられると考える。

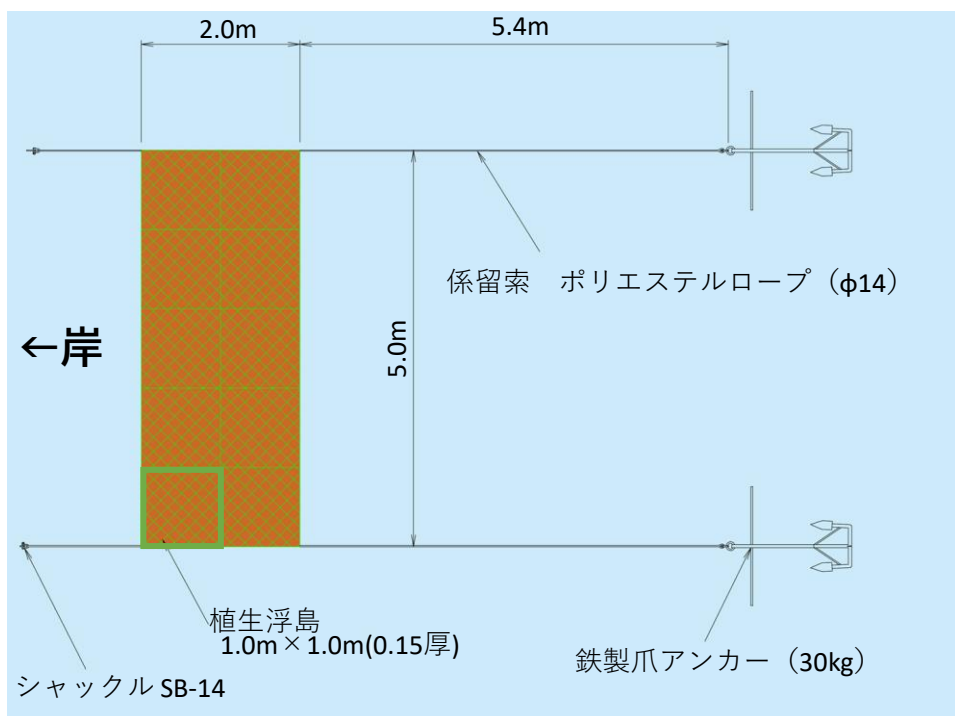


図2 植生浮島平面図

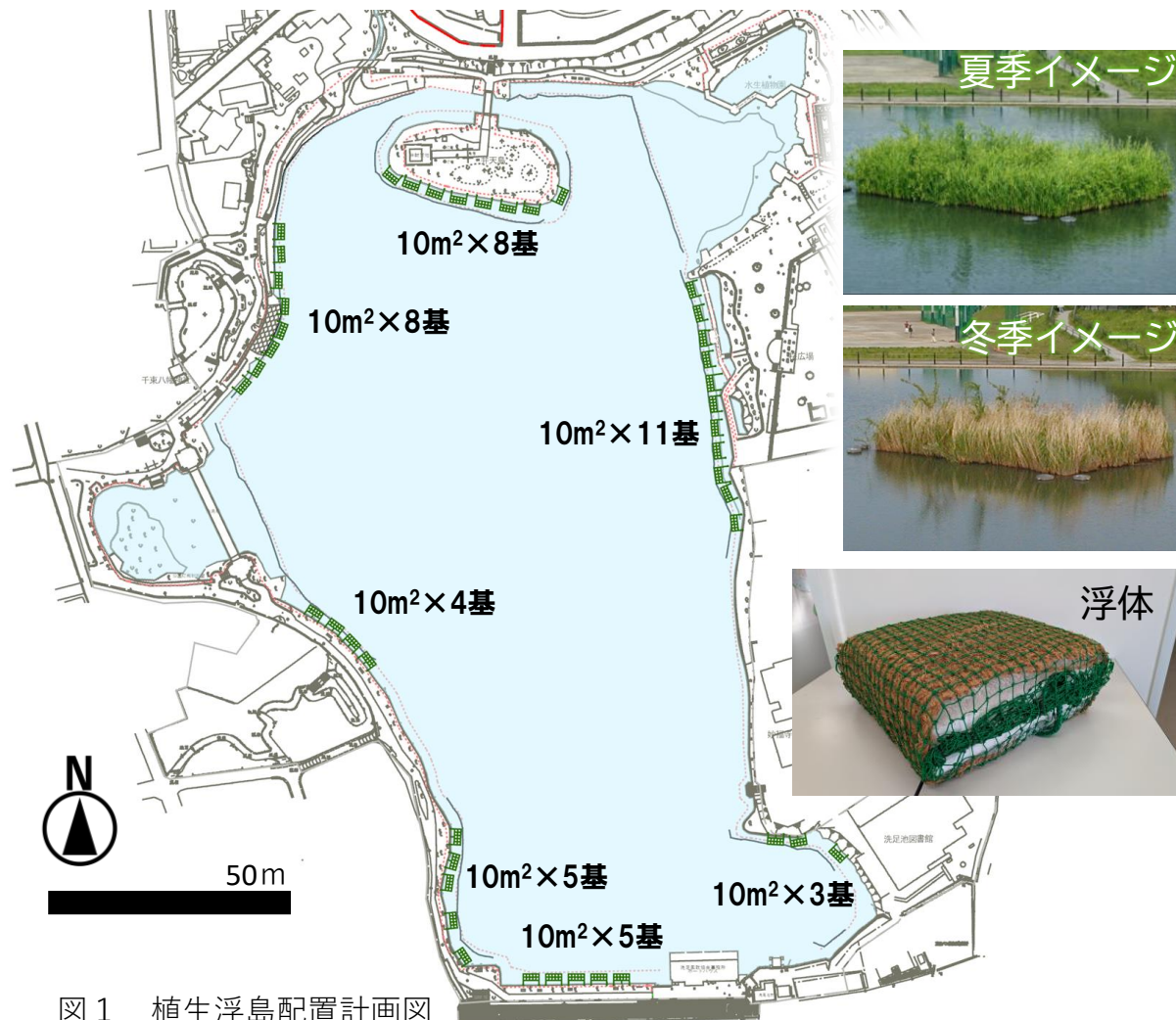


図1 植生浮島配置計画図

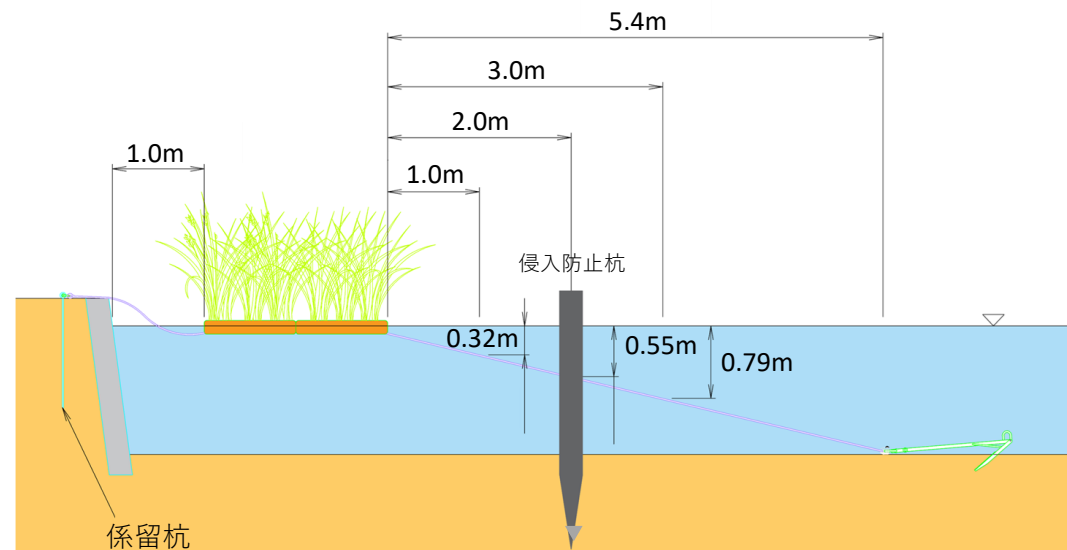


図3 植生浮島断面 (mm)